



2018.6.28



★—メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます—★

【地域日本語支援ニュース こだま】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会(AJALT)発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。

====目次=====

1■ともに生きる：港区から■

港区「やさしい日本語」への取り組み

芝浦港南支所 区民課窓口サービス係 高木隆子

2■高校進学進路ガイダンス情報（6、7月）■

3■お知らせ（1）■

「2018 年度 日本語教師のための夏の教え方講習会」のお知らせ

4■お知らせ（2）■

「AJALT 公開講座」のお知らせ

=====

1■ともに生きる：港区(東京都)から■

訪日外国人が増加する中、「やさしい日本語」の普及を進める自治体も増えています。大阪でも大きな地震が起こりました。「やさしい日本語」は今後益々重要な役割を担うのではないのでしょうか。

「こだま」では今年度「やさしい日本語」をテーマの一つとし、地域の取り組みについて随時お知らせします。今回は、東京都の中でも外国関連企業、大使館などが多く集まっている地区、港区での取り組みをご紹介します。今年の3月まで、港区の国際化施策を推進する地域振興課国際化推進係に通算8年間在籍された、高木隆子さんにご寄稿いただきました。

.....

港区「やさしい日本語」への取り組み

港区芝浦港南地区総合支所

◆港区の状況◆

港区は総人口約 25 万人の約 8%、2 万人を超える外国人が居住しています。東日本大震災直後は減少しましたが、ここ数年は年々増加傾向にあります。また、観光等で日本を訪れる外国人も急増しており、平成 29 年度は年間 2,800 万人を超えました。

東京 2020 オリンピック・パラリンピック東京大会が開かれることもあり、各国の企業などがビジネスチャンスを求めて、今後ますます外国人が増加することが見込まれているようです。

◆「やさしい日本語」への取り組み◆

港区では、これまでも行政情報の多言語化を進めており、英語を中心に中国語、韓国語で情報提供を行うなど、積極的に取り組んできました。港区の場合、この 3 言語で約 8 割の外国人をカバーできることが、外国人意識調査で分かっています。残り 2 割の外国人すべての言語を多言語化することは非常に困難なため、「やさしい日本語」を普及させて、すべての外国人に情報が届く仕組み作りを始めることになりました。また、「やさしい日本語」を通して、地域の英語がわからない日本人でも外国人とコミュニケーションをとることが可能になり、外国人が町会・自治会などの地域の事業へ積極的に参画できるきっかけになるとともに、日本人と外国人の相互理解につながると考えています。

「やさしい日本語」は、公共の場所や行政機関で使われる日本語が漢語や敬語など難しい言い回しが多く、外国人にわかりにくいということを踏まえて、特に災害発生直後などに、外国人に対して正確に、必要な情報を提供するために考えられました。阪神・淡路大震災以降、弘前大学（注）などで研究が進められ、東日本大震災以後は全国で「やさしい日本語」の取り組みを進める自治体が増えています。

「やさしい日本語」はわかりにくい日本語をやさしい言葉で言い換えます。「至急避難してください」は「すぐに にげて」、「使えないということはありません」は「使えます」など。いつも使っている日本語を簡単にするだけですが、コツが必要で、すぐに口から出てくるようになるには、ある程度の経験が

必要になります。

港区は、今年度、「やさしい日本語」を地域に広めるために、区民や職員に向けて研修を実施する予定です。なぜ「やさしい日本語」を使う必要があるのか、多文化共生とは何かについて学んだうえで、「やさしい日本語」への言い換えや書き換えを学びます。

港区が目指す地域社会の共通言語としての「やさしい日本語」とは、日本人が外国人と交流する際、特別なスキルによって使う言語でも、外国人が学ぶ新しい日本語でもありません。日本人が普通の日本語では伝わらないということを実感し、どう表現したら相手に伝わるかということを考えながら使う言語です。

「やさしい日本語」を行政の情報の発信手段として使うだけでなく、地域社会の日本人にも、日常の中で外国人と交流する際に使ってもらうことを目指します。また、外国人の日本語習得の支援も併せて進めていきます。日本人と外国人、相互の歩み寄りを支えていくことで、港区の目標である「成熟した国際都市」、つまり多文化共生社会を実現していきます。

◆「やさしい日本語」について思うこと◆

私自身、英語が話せないので「やさしい日本語」を通して多くの外国人とコミュニケーションをとることができたら、素晴らしいなと思っていました。昨年、12月から3月にかけて、AJALTで実施された「文化庁地域日本語実践プログラム地域在住外国人に対する日本語支援」の研修に参加させていただきました。そこで日本語教育について学び、実際に難民の方と「やさしい日本語」でコミュニケーションを取る機会に恵まれました。わかりやすい言葉に言い換える難しさを実感するとともに、日本語でもコミュニケーションを十分に取れることがわかり、今後の自信につながりました。

今の若い方達は英語が堪能な方が多くなってきて頼もしいかぎりです。でも、英語ができなくても、「やさしい日本語」を使って外国の方たちと交流できるということを多くの日本人に知ってもらいたいです。英語が母国語でない外国人もたくさんいるのですから。

◆今、取り組んでいること◆

現在は、区民課窓口サービス係に異動になり、海外からの転入や印鑑登録、住民票の交付など、外国の方への対応は、一日1件以上は必ずあります。企業内転勤のほか、留学生や、技術・人文知識・国際業務で来日の方も多くいます。

区民課の窓口では、英語、中国語対応が可能ですし、テレビ通訳ができるタブレット端末もあるので、対応に困ったということはほとんどありません。必然的に高齢者対応もありますので、職員は、わかりやすくやさしい言葉で対応するよう日々心がけています。

今年から始まる「やさしい日本語」研修を多くの職員が受講して、よりわかりやすい対応ができるよう、窓口サービスの向上をめざしていきたいと思います。

(注) 弘前大学人文学部社会言語学研究室（佐藤和之教授）

* 港区の「やさしい日本語」研修については、読売新聞 2018 年 5 月 25 日(金)

朝刊都民版紙面においても掲載されました。
